

2012年度 第2回

経済・経営学会研究会のお知らせ



日時：10月18日（木）13時10分～14時40分

場所：10号館 第二大会議室

演者：相川 奈美氏（経営学部准教授）

演題：18世紀初頭における Bowes 家の資産管理の源流



概要



本報告は、1700年から1770年にかけての Bowes 家の資産に関する管理実践を、勘定記録を通して検証するものである。Bowes 家の資産は、1700年から1940年にかけての継続的な事業記録の中に記録されており、初期のデータも大量に現存している。勘定は、家事手伝いの食料雑貨から炭鉱にいたる資産管理のあらゆる局面で利用されており、基本的な管理システムの証拠が、直接的に表われていた。会計記録は、会計の技術的側面や組織内での役割や位置づけを明らかにするのに、重要なものであった。18世紀の資産に関する問題は多数あったが、特に会計史および経済史の分野で取り扱われる傾向があった。

18世紀のイギリスにおいて、企業の経営形態はパートナーシップ形態が主流であった。その際、所有と経営の分離がなされていなかったとされている。しかしながら、Bowes 家が所有している不動産やパートナーとして参画している Grand Allies において会計技術を使った管理が実践されており、その報告責任を負った財産管理人や炭鉱監督者が存在した。

そこで、本報告は、先行研究を踏まえた上で、Bowes 家における勘定の起源と機能を明らかにすることで、工業発展の初期段階で、会計が管理活動に役に立つものであったのか、また、その報告責任を精査し、18世紀のイギリスにおけるアカウントビリティについて検証するものである。

